

子宮頸がんを予防する日 記者会見

“子宮頸がんゼロに向けて今やるべきこと”

## 細胞診 / HPV検査併用子宮頸がん検診

— 子宮頸がん検診リコメンデーションと栃木県小山地区  
モデル事業を中心に —

自治医科大学 産科婦人科学講座教授

日本産婦人科医会 常務理事

子宮頸がん征圧をめざす専門家会議 実行委員

鈴木 光明

2012年4月9日 厚生労働省記者クラブ

# 子宮頸がん検診リコメンデーション － HPV-DNA 検査併用検診にむけて－

日本産婦人科医会がん対策委員会

## はじめに

子宮頸がんの原因が高リスク型ヒトパピローマウイルス（HPV）の持続感染であることが明らかにされたことから、子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）が開発され、子宮頸がんは予防の時代になった。また診断技術の面では高リスク型 HPV を検出できる HPV-DNA 検査という新しい診断技術が開発・導入され、子宮頸がん検診も大きな変革の時を迎えている。

HPV-DNA 検査と細胞診を併用することにより、CIN2 以上の高度病変の検出精度が飛躍的に向上することが期待される。また、両検査とも陰性の場合には検診間隔が延長できることから、費用対効果も優れていると考えられる。既に細胞診と HPV-DNA 検査の併用検診は一部の自治体の住民検診や、任意検診である人間ドックなどで導入されているが、今後、更なる普及が見込まれている。このような動向を鑑み、日本産婦人科医会がん対策委員会では、現在、国内外で得られているエビデンスをもとに、子宮頸がん検診において、細胞診に HPV-DNA 検査を併用する場合の最も適切と考えられる検査法および運用法に関するリコメンデーションを作成することとした。併せて従来の細胞診単独による子宮頸がん検診についてもリコメンデーションは当面の子宮頸がん検診における暫定的な運用指針であり、今後の知見の集積を踏まえて、必要に応じて見直しを行う予定である。